

太田市自分ごと化会議 2025（第 1 回） 詳細議事録

- 日 時: 令和 7 年 11 月 1 日(土) 9:00~12:00
 - 場 所: 太田市役所 3 階 大会議室
 - 参加者: 無作為抽出市民:16 名(欠席 7 名)
 - コーディネーター:北海道清水町 町民生活課 参事 前田 真
 - 市関係部局:こども課
-

1. 太田市自分ごと化会議の概要説明

- 太田市企画政策課
 - 目的: 市民一人ひとりが地域課題を「自分ごと」として考え、市民主体のまちづくりを推進すること。2017 年から開始し、今回が 9 回目。
 - 参加者: 無作為抽出を基本とするが、今回は昨年度参加者にも協力を依頼し、計 23 名となった。(当日 16 名出席)
 - 協議テーマ:「親と子の笑顔輝くまち太田を目指して」。子育て支援に関する困りごとや課題について意見を求め、行政のヒントとしたい。
 - 今後の流れ: 全 4 回の会議終了後、意見を「提言書」としてまとめ、代表者から市長へ提出する予定。

2. 自分ごと化会議の進め方の説明

- コーディネーター
 - 自分ごと化会議の説明資料を基に AI が作成した解説動画を上映。
 - この会議は「シナリオのない会議」であり、市が原案を用意するものではない。
 - 今回導入する AI ツールが導く結論と、自身が導く結論がどう違うか見てみたい。参加者の皆さんにも AI を使ったデジタル民主主義を体験してほしい。
 - 最も大事な点として、「何をすべきか」ではなく「自分はどうありたいか」を「住民の生活実感」から議論することが重要。
 - 専門家の視点ではなく「生活者の視点」が求められており、「市の取り組みを知らなかった」と

いうことも大切な意見。勉強は不要であり、遠慮せず発言してほしい。

3. 太田市の子ども施策についての説明

- **太田市こども課:** 市の子ども施策について、資料に基づき以下の説明を行った。
 - **こども課の業務:** 給付(児童手当等)、給食費助成、入園・保育料管理、第3子支援、施設補助・指導監査など。
 - **子どもの現状**
 - 人口はH30をピークに減少傾向。外国人比率は7%以上で全国平均(2.4%)より非常に高い。
 - 年少人口比率は12.5%(R6)で減少傾向にある。
 - 出生数はR5で1,245人(H24年比で30%以上減少)。合計特殊出生率もR5は1.22と、県平均を下回っている。
 - **主な子ども施策**
 - 妊娠・出産期: 伴走型相談支援、経済的支援(計10万円)、市単独「ママヘルプ事業」(産前産後サポート3回無料)。
 - 育児・教育①: 「オムツの使い放題」(市独自、0-1歳児対象だったが本日より2歳児まで拡大)。
 - 育児・教育②: 給食費助成(保育園等、上限4,400円)、小中学校の給食費無料化(R5.4月～)。
 - 育児・教育③: 医療費無料(高校生まで)、第3子以降の保育料無料(国に先駆けR1.10月～実施)。
 - 学校環境: 給食は「自校方式」。教室・体育館に冷暖房完備(体育館の完備率は全国平均20%)。
 - 通学: スクールバス運営(13校、片道2.5km以上の生徒が対象)。
 - 居場所づくり: 放課後児童クラブ(学童、64か所)、市単独「こどもプラッツ」(学童に入れない子対象、22校で実施)、こども館(1か所)、児童館(15か所)。
 - 学びの提供: スポーツ学校、芸術学校、プログラミング学校(R4開校、Unityも学べる)など特徴的な事業を実施。
 - 貧困対策: 低所得世帯支援(児童1人8万円)、ひとり親世帯の大学受験料支援(上限5.3万円)。
 - 新規事業: みらい給付型奨学金(大学生、返済不要、年60万円×50人)、パパママリフレッシュ事業(R7年度～、理由不問の短時間預かり、土日可、1時間300円、1-2歳児対象)。

○ 今後の方向性

- 「給付型」から「サービス型」（一時預かり、誰でも通園制度など）への展開が求められる。
- 保護者同士が悩みを言い合える「地域拠点」（親子カフェ等）の機能強化が必要。
- LINE や X などでの「子ども・若者の声」の反映と、それへの対応が重要となる。
- 貧困、虐待、発達障害など問題が複雑化しており、「個別最適な支援」が必要。
- 親目線だけでなく「子ども目線」（子ども自体が幸せになれるか）の視点も重要。

4. 自己紹介

- コーディネーター:①所属、②最近の喜怒哀楽、③今回の意気込み、④好きな芸能人を 1 人 2 分程度で自己紹介をお願いします。
- 参加者自己紹介（③今回の意気込みのみ抜粋）
 - 今回の会議のターゲット層であり、自分と子どもが住みやすい街にできたらと思い参加。
 - 昨年も参加し、お声がけいただいたので参加した。子育てはしていないが、将来するかもしれない立場として話せることがあればと思い参加。
 - 太田市はハード面が充実しているが、生きにくさを抱えた人や「狭間に落ちる人」へのソフト面（人手）で貢献したいと思い、興味もあって参加した。
 - 市の子育て支援が頑張っていることを知る機会になったので、それを知人に PR していく役割ができたらと思う。
 - 面白そうだった、かつ、役に立てることがあればいいという興味関心から参加した。
 - 市がどういうことをやっているか多少興味がある。もっと柔らかない雰囲気で見聞が合えばよいと思う。
 - 一時大阪にいたため、その時と比較しながら太田市のことをもっと詳しく知れたらと思い参加した。
 - 来年から行政に携わる者として後学のため参加した。
 - 独身だがいとこの育児をサポートする中で課題を感じている。どんな人が街に住んでいるのか気になり、とりあえず来てみた。
 - 将来は県外の大学に進みたいが、太田市に戻ってきたときに「戻ってきてよかった」と思えるような地域にする手伝いができればと思い参加。
 - 子育てや子どもに苦手意識があるが、学習するつもりで参加。

- 去年も参加しており、意気込みは特になく「お願いされたので来た」「やることないな」ぐらいの気楽な感じ。
- どんな人が参加しているか興味があった。リアル子育て世代として情報を吸収しママ友に発信したい、子どもの未来のために知識をつけたいと思い参加。
- 小学校受験からずっと縛られたコミュニティで生活してきたため、新しい視点を取り入れたいと思い参加した。
- 太田市に転入して4年だが、子育て支援の情報がなかなか入ってこない。支援内容を知りたい、親として市のためにできることがあればと思い参加した。
- 「自分ごと化会議」がどんなものか気になった。将来公務員になりたいくて、公務員の方がどんな仕事をしているか知りたかったので参加した。
- コーディネーター：自身も北海道清水町（人口8,900人）の役場職員。清水町は渋沢栄一が作った街であり、アイスホッケーと第九（町民が原語で歌える）が盛んな街。北海道に来る際はぜひ役場を訪ねてほしい。

5. 議論

- コーディネーター：担当課の説明資料を基に、テーマ「笑顔あふれるまち太田」が実現できているか、できていないなら何が課題なのかを言語化してほしい。
- 委員からの主な意見
 - 不公平感・課題
 - 教育無償化などの施策が手厚くなることに世代間の不公平を感じる。今の若者への「甘やかし」が、希望を持ってない状況を生んでいるのでは。
 - 制度は「知っている人」だけが得をし、知らないと損をする「申請主義」に疑問がある。
 - 自身の子どもの対象年齢から外れた直後に「おむつ無償化」が拡大されるなど、世代間不公平を実感している。
 - 医療費無料化の弊害で、小児科が混雑しすぎ、本当に必要な時に診てもらえない状況がある。給食無償化に伴う「質」の低下も懸念される。
 - 制度・施策への評価と要望
 - 高校生委員：医療費無料（自身の怪我の経験）、給食費無料、充実した給食（自校方式）、スクールバス、スポーツアカデミー等を高く評価。
 - 一方で、プラッツの利用者の増加を実感。市の子どもの数が減少しているという統計にギャップを感じた。体育館の冷房が効かない問題も指摘。
 - 給食の質の低下を懸念している。体育館の冷房効率の悪さは「断熱改修」が必要ではな

いか。プラッツは人気だが定員割れしている。奨学金やパパママリフレッシュ事業は素晴らしいが知名度が低い。

- 公園の環境整備（草刈り、日陰不足、倒木）に課題がある。
- 市の取り組みの充実に驚いた。奨学金（給付型）は、自身の返済が始まったばかりなのでありがたみが分かる。

○ 情報伝達・周知

- 知名度不足の施策が多い。特に親が余裕のない時期（0-2 歳）の施策は、出生届の際などに「厚かましいくらい」分かりやすい資料を渡すべきでは。
- 「こども誰でも通園制度」の具体的な情報が全く入ってこない。赤ちゃん訪問で保健師から多くの情報をもらっても「マミーブレイン」で忘れてしまう。
- 市の素晴らしい取り組みが、市外からの転入者や「これから子育てを考える世代」に伝わっていないのはもったいない。
- 市が優れている点を積極的に PR すれば、市民の満足度や定住意欲が向上すると思う。
- 情報が全く入ってこない。市の LINE 通知は少なく、市の HP は見づらく検索機能も不十分。情報をプッシュ通知してほしい。

○ 支援のあり方・対象

- 充実した施策から「こぼれる人たち」（特に障害児）がいる。多様なニーズにどう対応するかが課題。インクルーシブな場づくりは理想だが難しく、当事者の声を「私事」として考える必要がある。
- 自身の子（重症心身障害児）は、看護師不足で保育園・幼稚園に受け入れ先がない。充実した支援がある一方で「行き場がない」と感じる。
- 一時預かり施設が少ない・遠い。保育園の「出生前申請」を可能にしてほしい。
- 「夜間や救急時」の一時保育がなく、頼れる人がいない場合に困る。
- 親同士のコミュニティの場として、敬遠されがちな「PTA」の機能を再活用してもいいのではないか。

○ 予算・財源

- 施策の「予算額」や「財源」が気になる。
 - 担当課：児童手当で約 50 億円、保育園関係も同等額など、子育て・教育関連は予算全体の 3 割程度を占める大きな金額になる。

- コーディネーター：最も多く意見として出てきた「情報」が一つの論点になる。良い取り組みが伝わっておらず「格差」が生じている点を次回以降議論したい。

6. AI チャットツール「いどばた」の紹介・デモ

- 合同会社多元現実

- 議論支援のための AI チャットツール「いどばた」を紹介。各委員は配布した QR コードからアクセス出来る。
- 機能としては大きく 2 つ。①市の施策に関する質問に AI が回答する機能、②参加者の意見を深掘りする機能。
- デモとして「制度が分かりにくい」→「HP が見づらい」と入力すると、AI が「どう見づらい?」「どうなってほしい?」と対話形式で意見を深掘りする様子を実演。
- 従来のアンケートではできなかった「意見の深掘り」を AI が手伝い、言語化できていない意見を解像度高く把握することができる。

7. 総括・事務連絡

- コーディネーター

- AI ツールは議論を良くするためのものであり、太田市の担当者だと思って活用してほしい。
- 本日の議論の最大の論点は「情報」であった。市は良い取り組みをしているのに、それが伝わっていないことで「格差」が生じている。
- 次回以降もぜひ継続して参加してほしい。来れない人も意見を出すことが「自分ごと化」である。

- 事務局

- 次回日程の確認と改めて出欠確認の郵便を送付する旨を連絡。